

表 将来交通像イメージの説明

凡例	説明
	都市軸を用いた幹線的な交通により、交通結節点(主要な駅(市外))と市内の拠点の移動がしやすくなる。 さらに、中心拠点と生活拠点を、様々な交通手段の接続・乗り換え拠点である「モビリティ・ハブ*10」として位置づけ、それぞれの拠点間の移動もしやすくなる。
	パークアンドライドの推進やシェアサイクル等の新たなモビリティの導入、地域の輸送資源等を活用することにより、生活拠点からラストワンマイル*11の移動をしやすくする。
	中心拠点の周囲に都市計画道路や構想路線が整備されることにより、中心拠点への交通の乗り入れを減少させ、回遊性が向上する。
	(都)寺尾上土棚線の整備や主要幹線道路の4車線化により、広域の移動が快適にできる。
	武相幹線(新東名高速道路)の整備により、県内外の他都市との移動がしやすくなる。

※その他、地図上に表記していない方針等については、市全域で取組むこととして位置づける。

***10 モビリティ・ハブ**

駅・バス停留所の周辺や移動が不便な住宅地などに、カーシェアリングや自転車シェアリングなど様々な交通手段への接続・乗り換えが可能な拠点のこと。多様化する人々の移動ニーズを満たし、都市や地域の利便性向上、脱炭素社会の実現、地域活性化などに貢献することが期待されている。

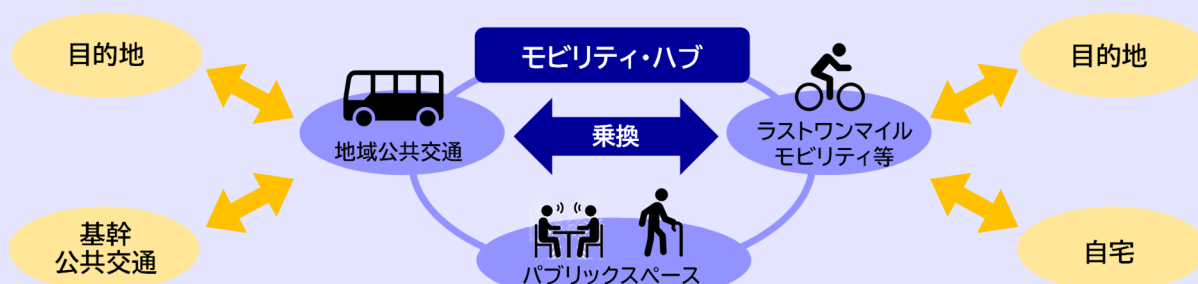


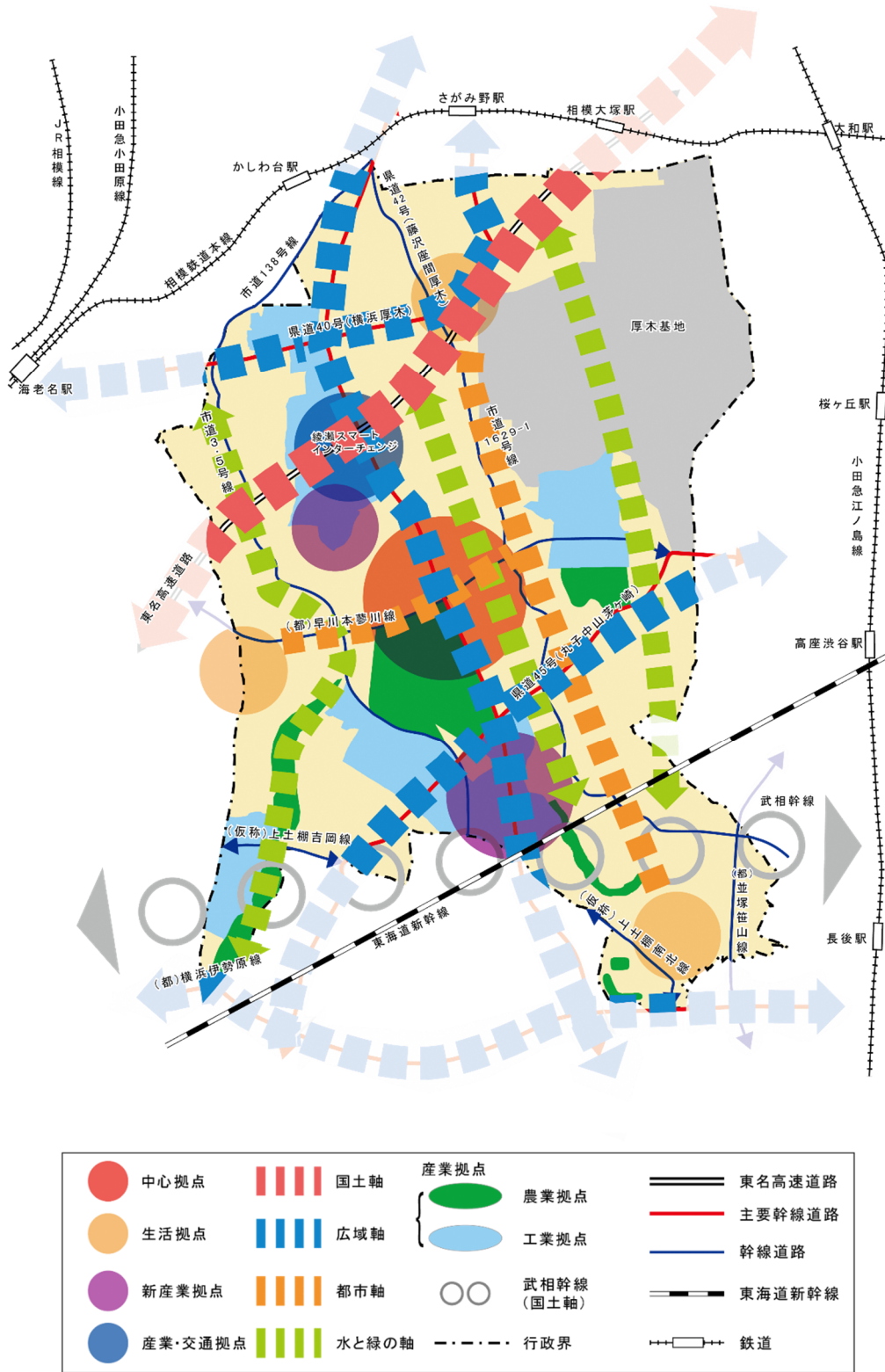
図 モビリティ・ハブのイメージ

***11 ラストワンマイル**

最寄りの生活拠点等から、自宅等の最終目的地までの移動のこと。

【あやせ都市マスタープランにおける将来都市構造図】

- P.40の将来交通像イメージは、あやせ都市マスタープランで示されている中心拠点や生活拠点、広域軸や都市軸等を踏まえて設定しています。



(出典)あやせ都市マスタープラン

図 将来都市構造図

1 計画の概要
2 交通の現状
3 交通をとりまく課題
4 将来交通像・基本方針
5 基本方針別の施策
6 計画の推進
資料編

4-3 公共交通の方針

(1) 公共交通ネットワークの方針

- 将来交通像を実現するために、交通結節点(市外の主要な駅)と、市役所周辺の中心拠点や市内各地域に置く生活拠点をそれぞれ結ぶ形で公共交通ネットワークを配置します。その上で、中心拠点・生活拠点の役割、生活地や各目的地への移動、生活地から目的地までの直接の移動のあり方を設定します。

【中心拠点・生活拠点の役割】

- ・ モビリティ・ハブの役割を持たせ、交通結節点や各拠点との移動は路線バス・コミュニティバスを基本とします。

【モビリティ・ハブから生活地(自宅)・目的地(市内)への移動】

- ・ 路線バス・コミュニティバスのほか、AIデマンド・シェアサイクル等の新たなモビリティを導入します。さらに地域が主体的に運営等を行う地域の輸送資源も活用します。

【生活地(自宅)から目的地(市内)までの直接の移動】

- ・ 路線バスでカバーできない移動ニーズには、新たなモビリティや地域の輸送資源を活用します。

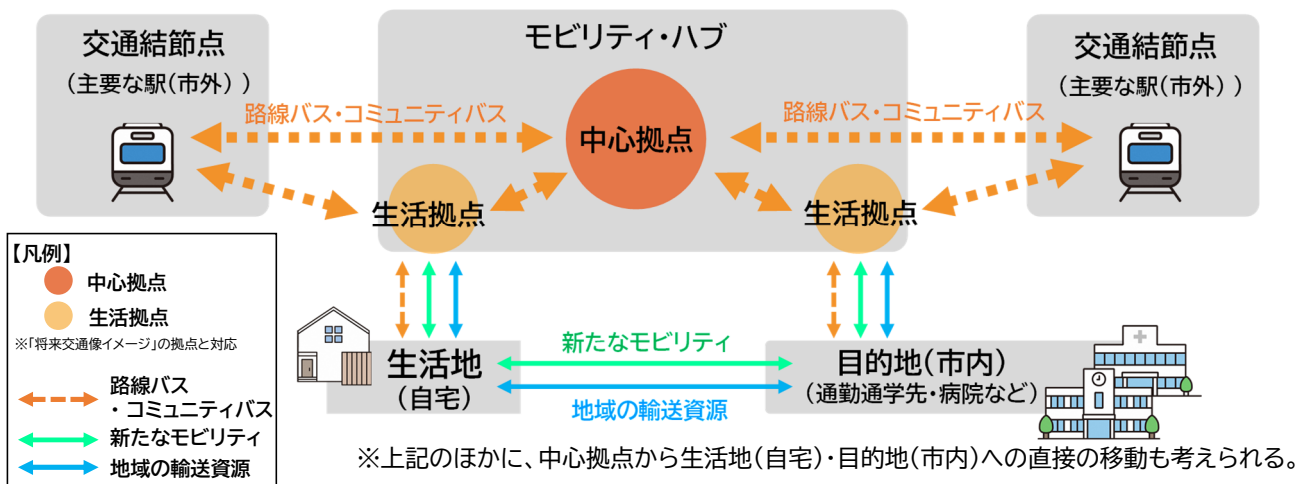


図 公共交通ネットワークの方針

(2) 公共交通の役割

- 交通手段別の役割を以下のとおり整理します。表の上の方は、広域の移動で使う交通手段を示し、下の方は近い距離の移動で使う交通手段を示しています。一番下には、最終目的地までの徒歩移動を補完するラストワンマイルについて示しています。

表 交通手段別の役割分担例

種別	機能・役割	実施主体	具体例
広域移動	長距離輸送により市内の各拠点と交通結節点を結ぶ	事業者	路線バス
市内移動	広域移動を補完するとともに、交通不便地域の解消を行い、市内の各拠点と主要施設を結ぶ	綾瀬市	コミュニティバス
市内移動 地区内移動	個別の移動ニーズに応じて運行し、市内～地域内の日常生活を支える	綾瀬市	AI デマンド型交通
地区内移動	地域の輸送資源を活用して、地域内の日常生活を支える	病院、福祉施設、NPO、事業者等	地域の輸送資源 (自家用有償運送等)
ラストワンマイル	最終目的地までの徒歩移動を補完する	事業者	新たなモビリティ (シェアサイクル等)